

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成 20年 6月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670300674
法人名	NPO法人なごみの森福祉会
事業所名	グループホーム はあと
所在地	鹿屋市横山町1974-3 (電話) 0994-31-9101
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成20年6月15日

【情報提供票より】(20年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.75人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢 平均	86歳	最低	77歳 最高 100歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮園クリニック、おばま病院、小林クリニック、ひがし歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービス事業所と宅老所が併設され、必要に応じたサービスを総合的に提供できる体制がとっており、利用者の家族や地域住民から安心感と信頼を得ている。管理者は質の向上にむけて、地域で様々な活動を積極的に行っており、行政との連携、各種団体との連携も密にとれている。外部からの来訪者も多く、活発で開放的な雰囲気である。ホームでは認知症の方とのコミュニケーション法やケアのあり方などについて学習会を定期的に行っており、利用者との信頼関係の構築に励み、常に柔軟な対応ができるよう日々取り組んでいる。保育園や小学校等との異世代交流も盛んであり、生き生きとした生活を実現するための支援も充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営に関する家族等意見については、要望や希望などがでた場合、速やかに職員全員で改善方法を話し合い、運営に反映させている。アンケートの実施なども具体的に検討中である。運営推進会議については未だ定期的に開催できていないので、今後の取り組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は外部評価の意義を理解し、評価結果については改善計画シートを作成してサービスの質の確保に活かしているものの、全職員が自己評価に積極的に取り組んでいるとはいえない。職員の意識の統一やケアの振り返り、見直しのために、全職員で項目の一つひとつについて点検していく取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は町内会長や民生委員・地域包括支援センター関係者・入居者家族・管理者などが出席して、ホームの現状などを伝えている。ホームでの生活を具体的に知ってもらうために昼食を利用者と一緒にとる取り組みも行われている。ただし、現状として2か月に1回開催できていない。今後は定期的開催するとともに、外部の人々の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合う機会にしていきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	便りを作成して定期的に家族に送付し、暮らしぶりを分かりやすく伝えている。個別の健康状態や金銭管理については家族の来訪時に声をかけたり電話をするなどして報告している。普段から何でも話してもらえるような雰囲気作りに留意しており、家族から意見はよく出ている。さらに率直な意見をくみ上げていけるように内容を十分検討した家族アンケートの実施を計画している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民がホームに立ち寄りたり、近くに住む利用者の友人が訪ねてくるなど、気軽に地域の人々が立ち寄り関係づくりができています。保育園や小学校の行事に参加したり、園児や児童にホームにたずねてきてもらうなど、地域と交流が行われている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に理念をつくりあげており、地域の中で暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとして役割を反映している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員があらゆる場面で理念の内容を確認できる機会を設けている。さらに実践で活かしていけるように、勉強会にてケアにおける理念の具体化を意識できるような話し合いを行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民がホームに立ち寄ったり、近くに住む利用者の友人が訪ねてくるなど、気軽に地域の人々が立ち寄る関係づくりができています。保育園や小学校の行事に参加したり、園児や児童にホームにたずねてきてもらうなど、地域と交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は外部評価の意義を理解し、評価結果については改善計画シートを作成してサービスの質の確保に活かしているものの、全職員が自己評価に積極的に取り組んでいるとはいえない。	○	職員の意識の統一やケアの振り返り、見直しのために、全職員で項目の一つひとつについて点検していく取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内会長や民生委員・地域包括支援センター関係者・入居者家族・管理者などが出席して、ホームの現状などを伝えている。ホームでの生活を具体的に知ってもらうために昼食を利用者と一緒にとる取り組みも行われている。ただし、現状として2か月に1回開催できていない。	○	今後は定期的に開催するとともに、外部の人々の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合う機会にしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは日ごろから連携がとれており、サービスの質向上を目的とした研修や認知症サポーター養成講座を行っており、課題、問題解決に協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを作成して定期的に家族に送付し、暮らしぶりを分かりやすく伝えている。個別の健康状態や金銭管理については、家族の来訪時に声をかけたり電話をするなどして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも話してもらえるような雰囲気作りに留意しており、家族から意見はよく出ている。さらに率直な意見をくみ上げていけるように、内容を十分検討した家族アンケートの実施を計画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動が利用者にも与える影響をよく理解しており、職員の交代をできるだけ少なくするように職員のストレスマネジメントに取り組んでいる。やむなく職員の交代がある場合でも利用者や家族にできるだけダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホーム協議会で行われる研修や内部の学習会、外部研修などに職員が積極的に参加できるように配慮しているが、職員の資質にあった研修やトレーニングが十分行われているまでに至っていない。	○	現在も外部研修にどの職員が参加するかを検討することによりある程度段階に応じた配慮がなされているが、各職員が立場・経験・地域密着型サービスについての理解や習熟度に応じて段階的に力をつけるよう、さらに支援してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会を通じて他のホームの職員と交流する機会がある。またホームで介護職員向けの学習会も行われており、意見交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームに来てもらい雰囲気に慣れてもらうようにしている。来てもらうことが困難な場合は管理者、職員が事前に利用者や家族に会いこいき、生活にスムーズになじむことができるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して介護してあげるという一方的な関わりにならないように気をつけ、互いに支え合いながら生活する関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者との会話の中から思いや意向を読み取るようにしている。特に入浴時や居室内で1対1になったときは利用者もよく話をしてくれるので、その機会を大切にしている。どうしても困難な場合は家族と相談しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の時に、すべての利用者についての意見や気づきを全職員が出し合い、ケアのあり方について話し合っている。家族の意見や会議で出された意見などを反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直しを行っている。期間内に状態の変化があった場合は、方針の変更点やケアのあり方などを話し合い、現状に即した計画を作成するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や買い物の支援などは日常的に対応している。また近隣に住む高齢者をホームに招いて食事会を行うなど、地域住民が求めるニーズにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診に同行するなどして、利用者や家族が希望するかかりつけ医と連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にむけて対応が可能なことや困難なこと、発生する問題点などについて話し合い、一定の方針を決めている。その内容は職員だけでなく利用者や家族、その他の関係者と共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者や利用者の家族それぞれの立場にたって対応や言葉かけをするように気をつけている。情報の管理についても適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体でものごとをすすめるのではなく、どんな時でも入居者と一緒に、希望を聞きながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に対する関心を高められるように、献立作りや食事の準備、味付け、後片付けなど、一緒に取り組むようにしている。食事の時間は同じテーブルで過ごし、さりげなく支援しながら生活の楽しみごとの一部にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や回数などについては利用者の意見をききながら柔軟に対応している。入浴時は職員と利用者がゆっくりと話をする時間になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	どんなことをしたいのか、できることは何なのかの把握をするだけでなく、その環境を整え、具体的に取り組んでいけるように支援している。それぞれの役割や楽しみごとを作ることによって、生き生きと生活できるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や利用者の体調によって、外出の機会を設けている。行事等で外出したり、日々ドライブを楽しんだりしながら事業所の中に閉じこもらないよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず開放的である。鍵をかけないケアを実践できている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については夜間を想定した防災訓練を行っており、近隣住民の協力も得られているが、災害に備えた備品等の準備が十分でない。	○	火災時に避難訓練だけでなく、災害に備えた備品等の管理について、確認してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量は概ね把握し、好みや身体状況にあわせた支援が行われているが、定期的に栄養の専門的な観点からチェックが行われていない。	○	カロリーの過不足、栄養の偏りなどを防ぐために、定期的に栄養士等によるメニューのチェックを行うことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンから食卓が一望できる開放的な作りで、明るく清潔感がある。季節に応じた飾り付けを施すことで、年間を通して季節感を刺激できるように工夫している。認知症の人にとって快適な色などにも配慮しながら共有空間づくりを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものに囲まれることが安心する人と、自宅にあったものがホームにおいてあることで混乱する方がいらっしゃるので、その方々の状況や好みにあわせて居心地よく過ごせるように配慮している。		